

## 平成 30 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	佐渡・生理/発生学コース「動物生理/発生学臨海実習」		
実習内容	<p>地球上では、多種多様な生物がそれぞれの生息環境に適応しながら生きている。動物の生理的反応や行動は、生まれながらに持っている環境適応のしくみの一つである。一方で、動物の初期発生においては、環境変化によるかく乱が胚の形質に大きな影響を及ぼすこともある。</p> <p>本実習では、魚類を用いて異なる光環境での体色変化実験やウロコを用いた色素胞の調節機構を調べる実験などを行い、海洋動物の環境適応機能の多様性について学ぶとともにそれらの成り立ちを生物進化の視点から考察する。また、ウニ初期胚を用いて薬剤処理実験を行い、発生におけるシグナル伝達の仕組みと薬剤による環境かく乱の発生への影響について考察する。実習は少人数グループに分かれて行い、最後にグループでの研究観察発表会を行う。</p> <p><u>講義</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 佐渡の海の特徴と海洋生物の多様性</li> <li>● 外部講師による動物生理/発生学に関する特別講義</li> </ul> <p><u>生物の形態・生理学実験・発生学実験</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 魚類の体色の多様性</li> <li>● 神経伝達物質やホルモン等によるウロコの色素胞調節から見る魚類の光環境への適応</li> <li>● バフンウニの受精と初期発生の観察</li> <li>● ウニ初期胚の動物極化および植物極化実験</li> </ul> <p><u>その他</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 海藻押し葉標本の作成</li> </ul>		
実習内容キーワード	生物機能の多様性、生理反応、環境適応、ホルモン、発生、シグナル伝達		
担当教員氏名・所属・役職名	安東宏徳（臨海実験所・教授）、大森紹仁（臨海実験所・助教）、飯田碧（臨海実験所・助教）、北橋隆史（臨海実験所・特任助教）		
協力教員氏名・所属・役職名	1名の外部講師を任用予定		
対象学生・学年	国公立大学の学部生/大学院生	開講期間	H31年3/4（月）～3/8（金） 4泊5日
開講大学・施設名	新潟大学・理学部附属臨海実験所		
施設の住所	〒952-2135 新潟県佐渡市達者 87		
電話	0259-75-2012	F a x	0259-75-2870
e-mail	hando311@cc.niigata-u.ac.jp	Web Site	http://www.sc.niigata-u.ac.jp/sc/sadomarine/
交通案内	新潟港から、佐渡汽船（カーフェリーまたはジェットフォイル）を利用して佐渡島に渡る。フェリー乗り場である佐渡両津港にて集合。両津港から臨海実験所までの移動は、実験所がチャーターバスを用意する（無料）。直江津-小木航路を利用したい実習生については、事前連絡があれば公用車で小木港まで送迎を行う。		
費用	実習期間中の食費および寝具洗濯代：約 9,000 円		
授業科目名	臨海実習 II		
単位数	1 単位	定員数	15 名
授業料の徴収について	授業料は徴収しない。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	原則として先着順。締め切り日は H31 年 1/28（火）。		
選抜結果連絡法	書面とメールにより本人に直接連絡する。		

